



# 令和2年 梅栽培暦

★土壌診断を行い、適正施肥に努めよう！

月		小梅・古城・南高(青果用)					南高(漬け梅用)					重点作業	
		防	除	使用基準	防	除	使用基準						
		病害虫名	薬剤名	倍数	取替前日数	使用回数	病害虫名	薬剤名	倍数	取替前日数	使用回数		
1-2		ミツバチ保護のため、開花期間中防除厳禁！											
3	上	灰色かび病	ロブール(水)	1500倍	45日前まで	2回以内	灰色かび病	ロブール(水)	1500倍	45日前まで	2回以内	1	かいよう病対策 防風ネット・防風垣
	中	かいよう病(がく落ちまで)	Zボルドー 又は ICボルドー66D	500倍 50倍	-	-	かいよう病(がく落ちまで)	Zボルドー 又は ICボルドー66D	500倍 50倍	-	-		
	下	アブラムシ類	モスピラン顆粒(溶)	4000倍	前日まで	3回以内	アブラムシ類	モスピラン顆粒(溶)	4000倍	前日まで	3回以内	3	凍霜害対策 防霜ファン
	上	カイガラムシ類(幼虫)	アブロードフロアブル(アピオン-E1000倍加用)	1000倍	7日前まで	2回以内	カイガラムシ類(幼虫)	アブロードフロアブル(アピオン-E1000倍加用)	1000倍	7日前まで	2回以内		
4	中	黒星病	ベルコート(水)	2000倍	30日前まで	3回以内	黒星病	スコア顆粒(水)	3000倍	前日まで	3回以内	5	新梢伸長期 紅南高づくり 4月上旬(1回目):摘心 5月上旬(2回目):摘心 収穫2週間前:摘葉
	下	かいよう病	マイコシールド	1500倍	21日前まで	4回以内	かいよう病	マイコシールド 又は カスミン液剤	1500倍 500倍	21日前まで 60日前まで	4回以内 2回以内		
	上	黒星病	ホフインプラスフロアブル	3000倍	前日まで	3回以内	黒星病	ホフインプラスフロアブル 又は イオウフロアブル	3000倍 500倍	前日まで	3回以内	7	花芽分化期 土壌診断
	中	かいよう病(南高)	マイコシールド	1500倍	21日前まで	4回以内	かいよう病	マイコシールド	1500倍	21日前まで	4回以内		
	下	コスカシバ	スコア顆粒(水)	3000倍	前日まで	3回以内	コスカシバ	スコア顆粒(水)	3000倍	前日まで	3回以内	9	休眠期 整枝・剪定 主枝は2~3本とする 古枝の間引きの徹底 弱樹勢樹はややく切り返す
	上	カイガラムシ類	モスピラン顆粒(溶)	4000倍	前日まで	2回以内	すず斑病(南高)	オソサイド(水)80(25℃以上の高温で散布しない) 又は スコア顆粒(水)	4000倍 800倍	前日まで	2回以内		
	中	すず斑病	スコア顆粒(水)	3000倍	前日まで	3回以内	ケムシ類 コスカシバ ハダニ類(多発時)	フェニックスフロアブル スターマイトフロアブル	4000倍 2000倍	前日まで	2回以内 1回	11	土壌診断
	下	すず斑病(南高)	インターフロアブル	5000倍	前日まで	2回以内	アヤマダラクケクスイ	スターマイトフロアブル	2000倍	前日まで	1回		
5	上						すず斑病	ベンレート(水)	3000倍	7日前まで	1回	12	休眠期
	中						アカマダラクケクスイ	インターフロアブル	5000倍	前日まで	2回以内		
	下						すず斑病	インターフロアブル	5000倍	前日まで	2回以内	12	休眠期

★摘心・摘葉で紅南高づくり

- ボルドー剤は天候により薬害発生のおそれがある。
- 薬害軽減のため、Zボルドーにはクレフノン(200倍)を加用する。
- 多雨が予想される場合は、アピオン-E(1000倍)を加用する(薬斑注意)。

### 収穫後の病害虫防除(多発時)

月	病害虫名	薬剤名	倍数	取替前日数	使用回数	備考
7	環紋葉枯病	トップジンM(水)	1500倍	21日前まで	3回以内	
8	カイガラムシ類(幼虫)	スプラサイド(乳)40 又は アブロードフロアブル(アピオン-E1000倍加用)	1500倍 1000倍	14日前まで 7日前まで	2回以内	
9	ケムシ類	マブリック(水)20	4000倍	21日前まで	2回以内	アメリカシロヒトリ等のケムシは、初期防除に努める。
10	コスカシバ	ラビキラー(乳)	200倍	休眠期	2回以内	樹幹及び主枝に十分散布する。キクイムシと同時防除はカットキラー乳剤100倍(休眠期 2回以内)
10-11	かいよう病	ICボルドー66D 又は ムッシュボルドーDF	50倍 500倍	翌前日まで 翌前日まで	-	高温時には落葉することがある。
11-12	白紋羽病	フロンサイドSC	500倍	60日前まで	1回	樹幹から半径1m程度の範囲に、1樹当たり50~100gを土壌灌注する。収穫後から開花前まで(但し、収穫60日前まで)
12	越冬病害虫	石灰硫黄合剤	7~10倍	発芽前	-	石灰硫黄合剤に弱い品種には散布しない。(皆平早生など)
1	ノコトガリキリガ(ハナムシ)	モスピラン顆粒(溶) 又は サムコルフロアブル10	2000倍 5000倍	前日まで 14日前まで	3回以内	山畑などは発生に注意し、開花前までに防除を終了する。
	灰星病	ホフインプラスフロアブル	3000倍	前日まで	3回以内	小梅多発園、開花前に散布する。

### 雑草防除

薬剤名	適用雑草名	使用時期	10a当り使用量(散布水量)	使用回数
バスタ液剤	1年生雑草	収穫前日まで	300~500m <sup>2</sup> (100~150g)	3回以内
	多年生雑草	雑草生育期(草丈30cm以下)	500~1000m <sup>2</sup> (100~150g)	
タッチダウンIQ	1年生雑草	収穫5日前まで	250~500m <sup>2</sup> (25~100g)	3回以内
	多年生雑草	雑草生育期(草丈30cm以下)	500~1000m <sup>2</sup> (25~100g)	
	スギナ	収穫5日前まで 雑草生育期	1500~2000m <sup>2</sup> (25~50g)	
ラウンドアップマックスロード	1年生雑草	収穫7日前まで	200~500m <sup>2</sup> (50~100g)	3回以内
	多年生雑草	雑草生育期	500~1000m <sup>2</sup> (50~100g)	
	スギナ	雑草生育期	1500~2000m <sup>2</sup> (25~50g)	

●タッチダウンIQ、ラウンドアップマックスロードの使用回数は両剤を合わせて3回以内

施肥基準(10a当り)	実肥(4月)	実肥(5月)	礼肥(収穫前後)	8~9月	元肥(9~10月)	土づくり(10~12月)
FTE入り 梅有機化成S860 (8-6-10) 40kg	ホウ素入り梅実肥408 (微量要素入り化成408) (14-10-8) 40kg 又は とくとく化成460 (14-6-10) 40kg	FTE入り 梅すももベレット (7-6-7) 140kg 又は 有機化成特A805 (10-6-7) 100kg	低地力園では なたね粕 200kg 又は ケイフン 300kg	FTE入り 梅すももベレット (7-6-7) 100kg 又は 絆ベレット (8-3-4) 80kg	<基準設計> バーク堆肥 2~4t 苦土石灰 140kg BMよりりん 60kg FTE 6kg 有機質:プロ有機 100袋 ハイミネ特号A200kg 腐植:アズミン 200kg リン酸:リンスター 60kg 石灰:セルカ160kg又は 苦土セルカ2号160kg	

●施肥基準は青果南高収量2tを基本とする。収穫量に合わせて年間施肥量を加減する。

### 防除の注意点

- 隣接園、早期収穫品種への飛散に注意。
- ドリフト対策として、防風垣・防風ネットの整備を行う。
- 南高園で小梅・古城が入っている場合は小梅・古城に合わせた防除とする。
- 防除器具の洗浄を行う。
- 生産履歴の記帳は収穫後より始まります。
- 本防除記載の農業の登録内容は令和元年10月31日現在です。

### 省力型施肥例(主冬有農務の投入を減らす)

月	礼肥省力型	160kg
4月	5<5<梅配合(FTE入り) (12-6-8) 又は 紀南省力梅配合(FTE入り) (16-6-7) ・次の施肥は9月より施す。	120kg
	年間一回型①	
12月 3月	梅一発(180日) (14-11-13) ・結果量の多い樹は4月~5月に調整のための実肥を施す。	180kg
年間一回型②		
3月 4月上旬	梅ロング698 (16-9-8) ・苗木には使用しない。	160kg

農薬中毒の相談は日本中毒情報センター(大阪)TEL072-727-2499(24時間対応)